

# 渡島の交通

## 港湾

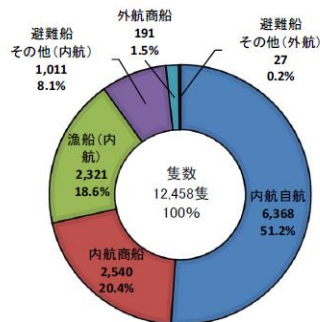
渡島地域には、重要港湾として函館港、地方港湾として松前港、榎法華港、森港があり、このうち函館港は道南の物流拠点としてのほか、青森港、大間港とフェリー航路で結ばれ、本州と北海道を結ぶ交通運輸の拠点としての機能を果たしています。

函館港はクルーズ船の寄港地としても人気が高く、歴史的な景観を生かしたウォーターフロントは多くの市民や観光客で賑わっており、平成17年5月には函館港に外貨コンテナ定期航路(韓国・中国航路)が開設され、これまでに取扱いのなかったコンテナ貨物の輸出入が行われています。

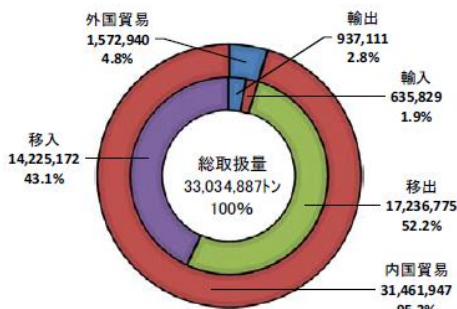
また、3つの地方港湾は地域生産物等の移出入や地域開発の拠点として重要な役割を担っています。



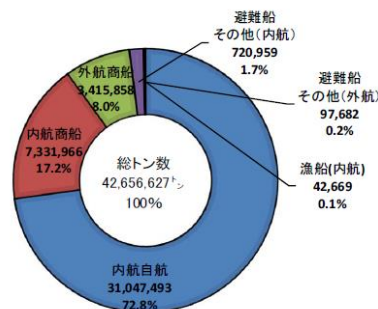
【隻数】



【取扱貨物】



【総トン数】



函館港取扱貨物量(トン)	33,034,887
全道港湾取扱貨物量(トン)	210,681,534
割合	15.7%

資料：函館市「函館港統計年報」(平成29年実績)

## 空港

函館空港は、年間約176万人の利用客があり、国内路線は、平成31年3月現在、道内3路線・道外5路線が就航し、国内幹線空港として重要な役割を果たしているほか、国際定期路線は、台北(桃園)線で2社が運航され、LCC(格安航空会社)が就航しています。韓国・中国への便は、ソウル(仁川)線、天津線、杭州線、西安線が開設されたものの、現在は運休となっています。

### ●函館空港利用状況

平成30年の国際線の利用状況は、9月の胆振東部地震の影響等により、前年から8.2%の減少となっています。

国内線の利用状況は、11月から回復がみられたものの0.7%の微減となっており、全体では1.5%の減少となっています。

### ●海外渡航の状況

平成30年の渡島地域の旅券発給件数は、国内景気の緩やかな回復傾向が続いたことや、アジアを中心とした国際線LCCの普及・定着などの要因から前年比309件増の5,814件で、平成に入り最低件数であった26年から4年連続で増加しました。このうち、5年用の発給件数は181件増の2,707件、10年用の発給件数は128件増の3,107件となっています。

### ●函館空港乗降客数の推移(人)

年	国際線	国内線	合計
H26	161,983	1,524,764	1,686,747
H27	204,856	1,567,196	1,772,052
H28	200,947	1,543,735	1,744,682
H29	197,268	1,593,815	1,791,083
H30	181,053	1,582,514	1,763,567

### ●旅券新規発給件数推移(件)

年	5年	10年	合計
H26	2,334	2,477	4,812
H27	2,393	2,461	4,854
H28	2,494	2,893	5,388
H29	2,526	2,979	5,505
H30	2,707	3,107	5,814

### ●道内外等の航空路線

(平成31年3月時点)

道内	函館～丘珠(JAL)※注1
	函館～新千歳(ANA)
	函館～奥尻(JAL)※注1
	函館～羽田(ANA・JAL・ADO)
	函館～中部(ANA)
道外	函館～伊丹(JAL・ANA)
	函館～成田(VNL)※注2
	函館～関西(VNL)※運休中
	函館～台北(桃園)(EVA/ANA共同運航・TTW)
	函館～仁川(KAL)※運休中
国外	函館～天津(GCR)※運休中
	函館～杭州(CES)※運休中
	函館～西安(OKA)※運休中

【航空会社】  
 日本航空(JAL)  
 全日空グループ(ANA)  
 北海道エアシステム(HAC)  
 A I R D O(ADO)  
 パニラエア(VNL)  
 エバー航空(EVA)  
 タイガーエア台湾(TTW)  
 大韓航空(KAL)  
 天津航空(GCR)  
 中国東方航空(CES)  
 奥凱航空(OKA)

※注1  
 HACは、日本航空・ジェイエアとの「運送の共同引受」により「JAL便名」で運航。  
 ※注2  
 VNLは、平成31年3月末で運休

### ●空港乗降客数



資料：空港の利用概況集計表  
 暦年別空港管理状況調査(国土交通省東京航空局)